



認知スタイルから見た日本語倒置文

西光義弘



はじめに

- 『認知スタイルと言語類型』の講義で基本認知スタイルに反する認知スタイルとしてみなすことができることを示した。
- 日本語の倒置文を詳細に検討することによって、倒置文の裏にある要因を明らかにする。



Contrary Style Principle(CSP)

- 基本認知スタイルに反する認知スタイルを体現した言語構造はその言語において有標な構造である。
- 日本語にも倒置文のようにVS,OVSの語順が可能。
- 例:「落ちた、荷物が」
「荷物を落とした、あいつが」
- いずれもとっさに発された発言。基本的に熟慮度が高い日本語においてあせり度が高い状況で発せられている。
- いわゆる主節現象はあせり度が高い状況で発せられるとみなすことができる。



先行研究

- 西光義弘(1979)「咲いた、咲いた、チューリップの花が」『英語と日本語と 林栄一教授還暦記念論文集』くろしお出版 271-286.
- 藤井洋子(1991)「日本語文における語順の逆転 — 談話語用的視点からの分析 —」『言語研究』 99、58-81.
- 高見健一(1995)「日英語の後置文と情報構造」高見健一編(1995)『日英語右方移動構文』ひつじ書房 149-165.
- 藤井洋子(1995)「日本語文の語順の逆転について — 会話の中の情報の流れを中心に —」高見健一編(1995)『日英語右方移動構文』ひつじ書房 167-198.



談話における倒置文の芽生え

○ H: うん、非常に元気でね。うーん、ちょっと、あ、生まれたときは難産だったんだけどね。

M: 子供が？

(「録音器」『言語生活』292号)

Mの「子供が？」はHの「非常に元気でね。」という発言が子供のことを言っているのか母親のことを言っているのかははっきりしなかったなので、確認を求めたものと考えられる。



談話における倒置文の芽生え

- H:うん、そりゃ、もう、3時間おきに飲むから。
M:ミルクを？
(「録音器」『言語生活』292号)

Hの赤ん坊が「3時間おきに飲むから」という発言はミルクのことに決まっているという常識があるので、「ミルクを」を略した。

少しでもはっきりしなければ確認を求める。確認の必要を感じる気持ちには度合いがあり、状況、個人によって境界線上のことについて確認を求めるかどうかは異なってくる。



談話における倒置文の芽生え

- A: まあ、そんなにいい課長にめぐり合わなかったんですな、Bさん。
B: 会わないんですよ。
A: 不幸にしてね。
(「録音器」『言語生活』277号)

同じ発話ではなく、相手の発言があった後に補足情報を付け加えている。

この文は相手が反応する前に前半部分だけでは内容がはっきりしないと認識した場合に急いで付け加えた。お互いの共感を高める役割をしている。